

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101323		
法人名	社会福祉法人日浦会		
事業所名	認知症老人グループホームレープそとめ		
所在地	〒851-2324 長崎市上黒崎町2199-14		
自己評価作成日	令和2年8月30日	外部評価結果確定日	令和2年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosvoCd=4271101323-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和2年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に囲まれた山頂からは、角力灘が一望出来、庭先には花畑や、野菜畑があり、その時期、その時期に収穫を楽しむ事が出来ます。春には桜の花の満開、秋は周辺の山々が紅葉し又、夜は満天の星空を仰ぐ事が出来、街中では味わうことの出来ない立地条件に設立しております。こういう環境の中で、ご利用者の方々にのびのびと安心して生活を送って頂いております。毎年法人内や当施設において様々な行事に参加しご家族、職員が交流の場を持ち信頼関係を築いております。現在は「新型コロナウイルス」の関係で行事などに支障が出ておりますが、当施設では、いつも賑やかで笑い声が絶えません。職員と喜怒哀楽を交えながら楽しく生活されています。ご家族からも「ここにお世話になって良かった」と喜びの声を聴くことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に沿って入居者目線を大切にしながら工夫をしている代表的な点を3つ。1点目は気持ちよく入浴していただくため会話を大切にしたり、使用する石鹸を個別に対応している点。2点目に楽しく食事をするための工夫について、味付けや調理方法、盛り付けを工夫し入居者に喜んで食べて頂けるように努めている点。3点目は入居者、お一人お一人の残存能力を活かし持っている力を低下させずに楽しみながらできる支援を心がけている点。これらの工夫を生み出すため、より良い支援に力を入れるために施設内では職員間の話し合える環境が整備されており、レープ会議や主任会議、それ以外にも法人内に設置されている相談室があり、風通しのよい環境づくりができていることが今回の調査で確認することができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有しホームの方針として常にご利用者に満足して頂けるよう実践に努めている。	母体である法人の理念とは別に部署方針として「ご利用者の声に耳を傾ける」があり、いつでも意識・確認できるよう共有スペースにかかっている。レーブ会議等で部署方針の共有を意識しながらケアに繋げている工夫をしている。	施設に必要な支援を施設独自の理念にして施設の強みの1つである、管理者とスタッフとの意見の反映をよりよいケアに繋げていけることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に一度、「市民大清掃」へ参加したり、交通安全期間中は立哨に参加し地域との繋がりを持っている。	コロナの影響で地域・施設の行事等も中止になったものの「市民大清掃」に参加し清掃だけではなく交流の場となる良い機会に積極的に情報交換をし繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の代表の方に参加して頂き情報を共有しながら地域の人々に発信して頂けるよう活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、地域の方、ご家族代表、警察、行政、近隣のGHIに参加して頂き、たくさんの意見を頂いています。現在は、書面での会議になっていますが、頂いた意見は、サービス向上に反映できるよう努めている。	コロナの影響で事前に意見や要望等を確認し、レーブ会議等で検討し、その結果を運営推進会議の議事録で周知・報告することになった。議題については生活内容が伺える活動報告や入居者の方々の状況や様子を伝えること。人と人の対面が難しくなっている状況でこの運営推進会議があることで数少ない中で情報共有ができるツールの1つとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長崎市北総合事務所の担当者には、運営推進会議への案内、議事録を送付しています。又、毎月発行している「レーブだより」も送付しています。	日頃からの情報共有や相談等の手段として主に運営推進会議の報告を書面で行っているため、案件があったときは密に連絡を取り早めの対応をしていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関は自由に入出りできるようにしてあるが、どうしても外へ出ようとされる方は、施錠するのではなく、職員と一緒に同行し、気分が落ち着かれるまで付き添うようにしている。	身体拘束については、入居者の方の気持ちに寄り添い落ち着くまでお話をしたり外気に触れて気分転換などの工夫をしている。言葉についてはレープ会議や内部研修等を行い職員同士で自己研磨に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人グループ内の内部研修、施設内での勉強会を行い、虐待が無いよう職員間で注意しあいながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長崎県保健福祉部の権利擁護に関する研修に参加し、法人内の研修にも参加、全職員にも把握してもらうよう報告も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の病状悪化、異常行動の際は、緊急時又、受診時に家族へ連絡し、十分に説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの要望、家族からは面会時、電話にて相談にのったりしている。職員に対しての不満があるときは、法人内の支援相談員が受け付けている。	毎月、入居者の日常生活の状況を郵送している。内容は施設での様子(食事風景・誕生会など)がわかる写真や健康状況、金銭管理を一覧にしている。コロナで対面での面会も難しい中、電話を中心とした手段で話を受け職員間で情報共有をし具体案を出し支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月レーブ会議や申し送りで職員の意見を集約し、月2回行われる「主任会議」にて報告してある。	意見の反映について管理者へ随時、相談できる環境があり、レーブ会議等で落とし込みをしてケアに反映させている。管理者も積極的に意見の収集を図るためにスタッフ全員から均等に収集できるように工夫がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同グループ内の病院で年に1～2回の健康診断を行ったりストレスチェックなど行う事で円滑に業務が行えるよう法人の長に相談を行ったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障のないように法人内の研修を勧めたり、職員にあった研修など考え研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の施設への見学は行っているが現在ネットワーク作りは行っていない。外部への研修参加時は交流の場があるが、現在は外部への研修には参加できていない状態です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に頂く情報提供書やサマリーに目を通し本人が施設で生活していく上で安心できるような馴染みの物を居室に置いたり、飾ったり要望などに耳を傾けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、電話にて気軽に相談できる体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の支援相談員が窓口となり対応している。又、本人の急な体調の変化などによる支援の変更など、家族、Dr、相談員で話し合いを持ち支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の手助けを行いながら入居者の意向を第一に考え(出来る事、手助けを行わなければならない事を話し合いながら)築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同グループ内の病院以外の受診や、困った事があれば一緒に対応策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方で馴染の方達との面会、隣のレーブ式番館や、老健施設におられる兄弟や友人の面会、電話でも対応できる様支援している。	コロナの影響で馴染みの場所への外出が難しい中、レクレーションの内容を工夫したり入居者と話をする時間をより大切にしている。馴染みの人や場所が途切れないよう意識をし馴染みの話で盛り上がり楽しみながら入居者との話を心がけていることを確認することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での共同作業を通じて交流を深めたり職員を交えて談話されたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は、家族、病院と連絡を取り職員が面会したり、安心して頂けるようにしてる。 ※2週間以内であればホームに戻って来られるよう追加項目として取り上げ、同意書も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に応じ生活して頂けるよう(買い物)リハビリを実施。困難な時は、話を聞いたり、散歩に出かける等気分転換を図っている。	入居者のこだわりや趣味を把握し、会話のきっかけを作る、散歩に出て並んで歩きながら話を聞く、居室でお茶を飲みながら話をする、入浴時に1対1で話をする等、入居者がリラックスして話しやすい環境や場面を工夫し、ゆっくりと会話をする中で、入居者の思いや意向を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活歴を活かせる活躍の場面を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のレーブ会議の中に於いて各個人に対する現状等の意見交換を行い、現状に沿った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のレープ会議で各入居者の担当が生活していく上での気付き(身体面を含む)を話し合い、検討を行っている。その様子は毎月家族へ送付する生活記録や、面会時に伝えている。	月1回開催される「レープ会議」で入居者の担当スタッフが1か月間の入居者の状況を報告し、各スタッフも入居者に対する気づきを出し合いサービス内容や支援経過を検討している。それを基に3か月ごとにケアマネージャーがモニタリングを行い、問題点(課題)を引き出している。サービス担当者会議で多方面から意見を出し合い介護計画を作成し、ご家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日にあった出来事、気づき等を個別記録に入力(タブレット)し職員間で共有しケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各個人が必要と思われる要望に応じて行っている。(買い物や、ドライブなど・・・現在は出来ていない状況)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の自治会長や民生委員、警察官の方にも参加して頂き、長崎市北総合事務所の職員同席の元で周辺情報や、支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度雪ノ浦ひうらクリニック廣田Dr 往診を受けているが、急を要する時はクリニックDrに連絡、指示を受け受診するような対策をとっている。	月2回、主治医や歯科医師の往診がある。入居者の状況に変化があれば、24時間医師と連絡が取れ、指示を受ける体制が整っている。受診内容や医師の指示は「受診記録」や「医師指示表」に記録してスタッフ間で共有している。ご家族には、状況に応じて電話連絡や毎月の「たより」で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日3回のバイタルチェックを行い、その中で異常がある時は、雪ノ浦ひうらクリニック廣田Drへ連絡相談し、Drの指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、法人内の支援相談員が窓口となり早期に退院できる場合に備え連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設での生活が困難になった場合、速やかに同グループの日浦病院と連携を取り、終末期は病院で迎えるようにしてある。	重度化した場合や終末期に対する施設の方針を入所時に説明し同意を得ている。入居者に変化があれば、その都度ご家族に報告し、施設として、できる範囲で支援することを伝え、主治医やご家族、管理者と連携を図りながら今後の方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、雪ノ浦ひうらクリニック廣田Drへ連絡指示を仰いだり、直接同グループの日浦病院へ連絡出来るようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	同グループ内で災害時の連絡体制を作り協力体制を築いている。又、その他の災害に備えてマニュアルに基づいた避難経路の確保、日中、夜間を想定しての災害、火災訓練を行っている。消防署立ち会いの元消防訓練も行っている。	防火管理者が企画し、それに沿って入居者とともに避難訓練を実施している。過去の教訓を踏まえ、台風に備えて浴槽に水を溜める、おにぎりを多めに作り食を確保するなど工夫している。地震想定避難訓練も行っている。内部研修として「救命救急講習会」を開催する、AEDや心肺蘇生の研修に参加する等、法人として救命救助に取り組んでいる。「電気、コンセントチェック表」で毎日点検を行い防火に努め、災害発生時に備えて飲料水や缶詰、カセットコンロ等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に関する研修などで、職員の技術向上に努めている。居室に入る時は合図して声掛けを行ったり、各個人の物を触る時などは了解を得る等している。	入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけに注意を払うように「言葉遣いの勉強会」や「高齢者権利擁護研修会」に参加している。日々の支援の中で気になる言葉かけがあれば、その場で管理者が注意する、支援が必要な時は、さりげなく居室やトイレに誘導する等、日常的な確認と改善に向けた施設としての取り組みを確認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に傾聴する事で、思いや希望を伝えて頂く事で各個人に合わせた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の体調を踏まえながら、入浴や作業など、無理強いすることなく個人にあった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは本人に選んで頂いたり、髭剃り、爪切りの支援、個人の希望で化粧されたりする方は、家族に持って来てもらったり、代わりに職員が購入してくるなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は法人の方針により、外部の業者の管理栄養士が献立を作り、食材を届けて頂いている。後片付けなどできる方は協力して頂き一緒に行っている。	食事は外部業者に委託しているが、味付けや調理方法、盛り付けを工夫し入居者に喜んで食べて頂けるように努めている。入居者の状態に応じて、とろみや刻み食、握りやすいスプーンなど検討している。施設の野菜畑で芋ほりをして調理する、「ちらし寿司」を入居者と一緒を作る、ホールで「スイカ割り」を楽しむ、5月には「ちまき」を作って食べる等、季節感を感じて頂けるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	令和元年12月よりセントラルキッチンへ移行し委託業者よりバランスの取れた献立を提供して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来ない人には職員が介助して行う。又、提携しているたけとみデンタルクリニックから毎週往診があり、口腔内のチェック、義歯の調整などして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」にて各個人の排泄パターンを確認し、時間を見て排泄誘導を行っている。夜間は、ポータブルトイレを使用して頂くなどして対応している。	レープ会議で各入居者の支援方法を検討して、支援内容の統一を図る等、入居者の生活習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄等をチェックし、便秘になっていないか観察。毎日テレビ体操や水分補給を行うなどしている。必要であれば、緩下剤などを使用されたりする。(Drの指示にて)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各個人が週3回入浴できる様支援している。季節に応じて入浴剤を使用するなどの工夫をしている。	入居者の状態が変化しても、浴槽に浸かり気持ちよく入浴できるようにスタッフのシフトを工夫している。入浴時は会話が弾むことが多いため、ゆっくりと話をする時間として大切にしている。入居者の皮膚の状態に合わせて石鹸を検討する、香りのよいシャンプーを使用する等、入浴を楽しんで頂けるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や、寝具の手入れを行い安心して快適にいつでも休めるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を各個人の管理ファイルに綴じ、職員が把握できる様にしている。又、変更があった場合は申し送りノートに記載する。服薬は間違いが無いように確認して困難な方には、介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたためる人、食材の下処理や、おしぼりたたみが可能な方等個人の力を活かして役割を持ち、楽しみながら生活して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法人内での行事の参加や、散歩、ドライブなど出かけられるようにしているが現在の状況は全く実行出来ず、施設周辺の散歩、規模を縮小して施設内でできる行事などを行っている。	現在、コロナの影響で日常的な外出が難しくなっているが、気分転換にドライブ(車いす対応車)に行く、施設内を散歩する、庭先で花見をする等、できる範囲で外出支援に努めている。また、外出が難しい中で、施設のホールで体操やボーリング、手作りお手玉で玉入れなどを楽しむ等、工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の所持するお金は紛失するとトラブルのもとになるので事務所の金庫の中に預かり、毎日残金チェックを行っている。週に一度来るパン屋さんの販売時も個数を決めて購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設での余暇活動の中で、ご家族に絵手紙などを作成し、送付したりしている。又、電話があつたりかけたりする時は、職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に庭に咲いた花や、個別活動、誕生会で撮った写真、作品などを飾ったり、季節に応じた飾りつけなど職員と共同で行っている。	共用空間では、トイレや浴室、居室がわかるように大きく表示して、入居者が安心して生活できるように工夫している。スタッフと一緒に作ったちぎり絵や手作りカレンダーで季節感を出している。オゾン発生器や除菌、消臭噴霧器を設置して感染症予防に努める等、安全で心地よい環境に配慮し、入居者は1日のほとんどをホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人が自分が気に入った場所で過ごして頂けるよう円卓、ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から本人が使っていた物や、大切なものを置いたり、家と変わりのないような雰囲気を作り、心地よく生活が送れるよう支援している。	居室に、ご家族の写真や椅子、テレビ、ぬいぐるみなど馴染みの物を置き、入居者が落ち着いて過ごせるように工夫している。また、各居室に洗面所があり、ゆっくりと自分のペースで口腔ケアができるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺を設置し安全な移動が出来るようにしてあり、居室内もスムーズに起き上がれるようにpバーを設置してある。		